

米国マイクロソフトの開発責任者に聞いた Windows Vistaとウェブの プラットフォームテクノロジー

リリースが延期されてきた次期 Windows だが、正式名称が Windows Vista (ビスタ) と決まり、2006 年中にリリースされるのはほぼ確実だといわれる。圧倒的なシェアを持つ Windows と IE は、多くのユーザーにとって文字通りインターネットへアクセスするための“窓”であるといえる。これに大きな技術的变化がもたらされるならば、ネットビジネスを行う企業にとっても影響は少なくないだろう。

Vista に搭載されるという「Windows Presentation Foundation」(開発コード名 Avalon) の技術は、これまで「Windows で派手な GUI を作るためのもの」という見方もされていた。しかし、Windows だけでなく、新たなウェブアプリケーションのプラットフォームとしての顔も持つということが少しずつ見えてきた。

この新しい技術でウェブの何が変わるのかについて、マイクロソフトの次期 Windows プラットフォームを担当するマイケル・ウォーレント氏に伺った。

※関連ニュース p.56

編集部

● マイケル・ウォーレント

■ 編集部

Photo: 片桐 圭



■ 今回のイベント(2月に横浜で行われた Microsoft Developers Conference 2006)では、次期 Windows で採用される技術が紹介されました。中でも、ユーザーインターフェイスや表示機能(プレゼンテーション)に関する情報が多く取り上げられています。これらの技術はこれまでとどこが違い、ユーザーに何をもたらすのでしょうか。

● 私は1996年にマイクロソフトに入社して、インターネットエクスプローラ(IE)の開発にかかわってきました。ずっと、ウェブブラウザ上でデスクトップアプリケーション並みのリッチでダイナミックな環境を提供したいと考えていました。しかし、それを従来の環境で実現するには、難しい問題がいろいろとありました。

2001年の後半、IE6が完成に近づいたころ、Avalon という新しいプロジェクトを立ち上げました。これは、ウェブと Windows における新しいプラットフォームで、Windows Presentation Foundation (WPF) という正式名称になります。統合された文書やデータの処理環境を提供し、.NET による開発ができます。これによって、インターネット、イントラネットなどで、より使い勝手のいいアプリケーションを構築できます。

■ そのプラットフォームを使った場合、ウェブサイト制作者やデザイナーにはどのような影響がありますか。

● WPF では、新たに XAML (ザメル: 拡張アプリケーションマークアップ言語) というものを使ってウェブページを作成できます。この言語は HTML のようなマー

クアップ言語で、C#や Visual Basicなどに比べると簡単に記述できますが、HTMLよりも高度な表現や処理が可能です。XAMLを使うことで、Windows上でも、ウェブ上でも、これまでよりもリッチなサービスを提供できるようになります。たとえば、HTMLではレイアウトが崩れてしまうようなコンテンツでも、見やすい形で表示できます。

■ XAMLで作ったウェブページというのは、既存のブラウザやWindows以外でも利用できるのでしょうか。

● Windows Vistaおよび Windows XP、Windows Server 2003以外、たとえばMac、Linuxといったプラットフォームには、WPF/E (Everywhere)という、WPFのサブセット環境を用意する予定です。これは、ブラウザ用のプラグインなどの形で提供されるランタイムです。XAMLの完全な実行環境であるためには、WinFXという新しいWindowsのプログラミング基盤が必要ですが、ウェブページ上での表現や簡単な処理など、マクロメディアのFlashでできるようなことはWPF/E上でも可能です。FirefoxでもMacのSafariでも動きます。

■ XAMLによるウェブやアプリケーションは、何を使って開発するのでしょうか。

● マイクロソフトは、ウェブ開発者、デザイナー向けに新たなツールを提供しま

す。Expressionファミリーというもので、グラフィックデザイナー、ウェブ制作者、開発者に向けた3種類のツールがあります。さらに高度な開発には、Visual Studioも使えます。

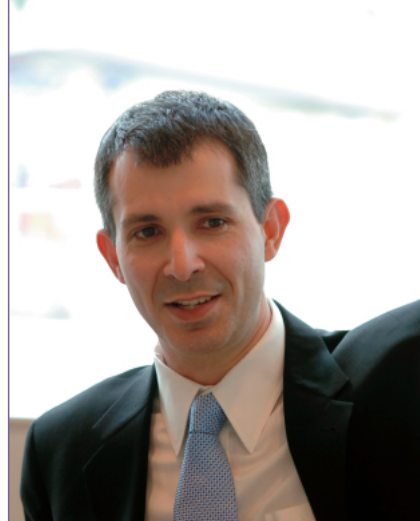
デザイナーと開発者が共同作業するケースも考慮しており、ビジュアル要素とロジック部分の切り分けも、Flashなどよりもしやすくなっています。

■ XAMLで作ったアプリケーションをウェブサーバーで公開する場合、使用するサーバーのプラットフォームに条件はありますか。

● 通常のウェブサーバーでかまいません。(Windows Serverの) IISはもちろん、Apacheでも何でもかまいません。XAMLで作ったデータをアップするだけです。ブラウザ側にWPF/Eの環境があれば動きます。

■ ウェブブラウザでリッチなUIを提供するという点では、現在Ajaxがブームになっていて、マイクロソフトでもAtlasというフレームワークを開発中です。WPFとの棲み分けやターゲットの違いなどはあるのでしょうか。

● グッド、ベター、ベストという風にソリューションを分けて考えています。Ajaxは、HTMLやDHTMLなどの標準技術を使っており、高い互換性を持っていますが、同時にHTMLの限界というも



マイケル・ウォーレント (Michael Wallent)
マイクロソフトコーポレーション
Windows クライアントプラットフォーム&ドキュメントチーム ゼネラルマネージャ

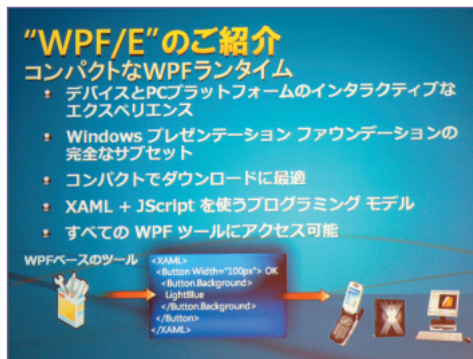
■ Windows Vistaのコアユーザーインターフェイス、メディア&ドキュメントプラットフォーム技術を担当する部門の統括責任者。IE4～6の開発に携わり、現在はWindows Presentation Foundationチームを率いる。

のもあります。XAMLとWPF/Eを使って作るなら、それと同等のことを簡単に実現できますし、よりリッチなものも可能です。さらに、ActiveXやWindowsアプリケーションであれば、さらに高度なことができます。それぞれの技術の間に明確な線引きがされているわけではありませんが、何を重視するか考えて、それぞれのソリューションに適したものを選択していけばよいと考えています。

■ Windows Liveでは、Gadgetと呼ばれる小さなアプリケーションをパーツのように組み込むことができます。このGadgetは、Windows Vistaにも搭載されますが、WPFの技術とは関係があるのでしょうか。

● 今のGadgetには、DHTMLが使われています。将来的には、Windows LiveにWPFの技術を取り入れていくことも考えられるでしょう。ただし、まずは製品を出荷しなければいけませんね(笑)。

■ ありがとうございました。



XAMLアプリケーションの環境であるWPF/Eは、Windowsだけでなく、MacやUNIX、ケータイなども視野に入っている。IEを超えた、さらなるプラットフォームの制覇を目指すことにある(図はMicrosoft Developers Conference 2006でのもの)。

[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレス R&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp